

女川町復興まちづくり住民説明会（清水） 議事録

日 時：平成 24 年 2 月 18 日（土）10:00～12:00

場 所：総体 柔道場

対象者：清水全区

出席者：女川町 須田町長

復興対策室 赤間室長、柳沼参事、西尾係長、鑑氏、木村主査、神山事務員
水産課長、建設課長、税務課長、町民課久坂

1.挨拶 須田町長

2.資料説明：復興対策室

- ①基本的な考え方
- ②断面図（案）
- ③高台移転候補地（案）
- ④まちづくりのスケジュール（案）
- ⑤具体的復興事業の概要
 - ・災害公営住宅整備事業
 - ・防災集団移転促進事業
 - ・漁業集落防災機能強化事業
- ⑥防災集団移転促進事業による移転者の再建収支試算（想定）

3.意見交換（Q；住民、A；町役場）

- Q. 復興完了まで8年だが、本当に整備ができるのか。
高台移転に賛成。いつくらいにどこが出来上がるのかを見せてもらいたい。
- A. 町としては8年。その前半戦の半ばちょっと超えるくらいまでに住宅供給は終わらせたいということで頑張る。一人一人が当事者だということもあるから、なんとか皆さんの思いに早く答えられるように努力していく。
- Q. 原発の事故に対応するための避難道路の整備が必要だと考える。
- A. 県と協議して進めて行く。
- Q. 高台移転には賛成だが、自分が住んでいた清水一区は居住できない計画。買い取り価格が気に入らない場合、どうすればよいのか。
- A. こちらとしては粘り強く交渉する。
- Q. 移転元の土地と移転先の土地の価格の差が大きいと移転先の土地を買えない。その差はどう埋めるのか。
- A. 町としては何とか売り買いの差がなるべく広がらないような工夫をしていく。
土地を買わなくても、町として格安あるいはしばらくただで借地として、提供することになると思うので、そこに建てることは可能。
復興融資制度で、最低で1460万まで借りられる。建てた建物に関して担保設定できるので、担保にする土地がなくても借り入れは可能。
- Q. 借地に住宅を建てられるといっても、退職して収入が無くなってしまった後、借地料をどうやって支払うのか。住む場所はどうすればよいのか。町として何か考えているのか。
- A. 土地については、およそ4年以内で提供は可能だと考えている。
個別に相談を受ける。相談体制については今後整えていく。
- Q. 年配者にとって、自力再建は難しいと思う。災害公営住宅の家賃をできるだけ低く抑えて貰いたい。
- A. 災害公営住宅なので、最初の5年間家賃を安くできる制度がある
- Q. 清水二区。陽当たりも良いし、清水三区と同様に盛土して、女川を拡幅もして、住めるようにできないか。
- A. できないということではない。これからどれだけそういう要望があるかということも受けて、全体のこ

とを決めていく。

- Q. 清水三区。以前、清水集会所での説明会で、ある議員から出た案として、水門を作れば、津波の遡上を遅らせることができるというものがあった。水門があれば住むにも安心できる。この案については、どうなっているのか。
- A. 高さ5メートルくらいの津波であれば、水門も効果はあるかと思う。今回の津波は、高さ自体が20メートルあったので、川があったからというのは超越してしまっている。
- Q. 清水一区。自宅が瓦礫置き場になっている。瓦礫が減るどころか増えている。しかも震災瓦礫とは思えないものが増えているようにみえる。町がしっかりと監督してもらいたい。
- A. いろんな皆さん思いがある土地なので、その点はしばらく申し訳ないなと思っている。これから、基礎をはがす、大きい建物を解体することが残っている。早くこういう状況を解消していくというのが一番のこと。東京都が初年度6万トンくらいを受けてもらうことになっている。これからも放射線の測定をしながら間違いのないようにやっていく。いろんな協力ももらって初めてやれるし、皆さんのそういう心がある中で、置かせてもらっているのだから、いろんな注意を払いつつやっていく。
- Q. 町を歩くと見える災害遺構を本当に残すのか。記憶がよみがえる。
- A. 町民からすれば、いつまでもか、というのが多いのかなという気はしている。ある程度、2、3年引っ張る中であとは整地していく段階で被せるか、解体するかその辺の判断はしていかなければならないのかと思っている。今年、地震学会が仙台である。学術的な方から言えば貴重な資料ということになるのだと思うので、そういうことで大勢の方が調査でこられたりするだろうし、しばらくの間は学術的な意味はあろうかと考えている。
- Q. 被災せずに残っている住宅はどうするのか。
- A. 現在支援の対象には当てはまらない。今後、事業を進めて行く中で、検討していく。今後どのようになっていくかというところで、問い合わせをしてほしい。
- Q. 清水地区の移転先がどこになるのかは計画しているのか。
- A. なるべく既存の住宅地に近いところということを意識した設定にはしている。まずは、時間も勘案しながらどこに希望するかというアンケートの中で数字を把握し、それである程度の順番や方式を決めていくことになるかと今のところは考えている。
- Q. 清水地区としてまとまって移転する計画にはなっていないのか。
- A. 今のところない。
- Q. 陸上競技場では、戸建て用地は計画しているか
- A. 長期的には考えている。
- Q. 清水三区。A'エリアの土地所有者が、高台に移転できるのか。
- A. 可能。

以上